

## 訂正表

2013年11月29日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容	掲載日
P. 12	3 (1) 第2パラグラフ	誤 この理論によれば、人間の認知活動は2つの異なるシステムによって支えられており、それぞれのシステム内には異なるコードの情報が貯蔵されている。一方は、音声や文字などの言語情報を扱う言語システムであり、 <u>イメージン(imagen)</u> とよばれる。もう一方は、物体の見え方や環境音、におい、味、触覚などといった非言語的な感覚情報を扱う非言語システムであり、 <u>ロゴジェン(logogen)</u> とよばれる。イメージンとロゴジェンはそれぞれのシステム内で連想的構造を形成しており、さらに対応関係にある両者の間にも関連結合が存在すると考えられている。	2013/11/29
		正 この理論によれば、人間の認知活動は2つの異なるシステムによって支えられており、それぞれのシステム内には異なるコードの情報が貯蔵されている。一方は、音声や文字などの言語情報を扱う言語システムであり、 <u>ロゴジェン(logogen)</u> とよばれる。もう一方は、物体の見え方や環境音、におい、味、触覚などといった非言語的な感覚情報を扱う非言語システムであり、 <u>イメージン(imagen)</u> とよばれる。イメージンとロゴジェンはそれぞれのシステム内で連想的構造を形成しており、さらに対応関係にある両者の間にも関連結合が存在すると考えられている。	
P. 31	下から4行目	誤 コン <b>バ</b> イル	2013/11/29
		正 コン <b>パ</b> イル	

ページ	内容	掲載日
P. 47-48	<p>本テキストでは、巻末の確認テスト (p. 43～) に対する解答部分 (p. 47・48 に該当) が落丁して          ました。落丁部分は以下となります。</p> <p><b>【確認テスト】解答</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① データ駆動, ボトムアップ, 概念駆動, トップダウン</li> <li>② 帰納的, 文脈情報, 知覚循環,</li> <li>③ 鋳型照合, 特徴分析, バンデモニアム・モデル</li> <li>④ アフォーダンス, ギブソン, ヒューマンエラー</li> <li>⑤ 注意, 前注意過程, アイコニックメモリー, スポットライト, 注意の範囲</li> <li>⑥ 両耳分離聴, 初期選択モデル, 減衰モデル</li> <li>⑦ 注意資源, 心的努力, 多重課題</li> <li>⑧ 自動的処理, 心的資源, 制御的処理, エラー</li> <li>⑨ 二重符号化理論, ログジェン, イメージェン, 加算的</li> <li>⑩ 心的回転, 回転角度</li> <li>⑪ 選択的干渉, 言語材料, 図形材料, 長く</li> <li>⑫ 認知地図, 過大, 直角, ナビゲーション経験</li> <li>⑬ 感覚, アイコニックメモリー, アイコン, エコニックメモリー, エコー</li> <li>⑭ 記銘処理, 維持リハーサル, 精緻化リハーサル</li> <li>⑮ 宣言的, 手続き的, 意味, エピソード, プライミング</li> <li>⑯ 二重貯蔵, 系列位置効果, 処理水準, 作業記憶</li> <li>⑰ 体制化, 主観的体制化, 精緻化,</li> <li>⑱ 減衰説, , 干渉説, , 検索失敗説, 「のどまで出かかる」現象, 検索失敗説</li> <li>⑲ Loftus, E. F., 手がかり情報, 事後情報</li> <li>⑳ 自伝的記憶, フラッシュバルブ記憶, 回想的記憶, 展望記憶</li> <li>㉑ カテゴリー, カテゴリーの事例, 概念, 認知的負荷</li> <li>㉒ ブルーナー, 連言, 選言, 関係的s</li> <li>㉓ 定義的特性理論, プロトタイプ理論, 理論ベースの概念理論</li> <li>㉔ チョムスキー, 学習, 言語獲得装置</li> <li>㉕ 意味ネットワーク, リンク, 上位, 活性化拡散モデル</li> <li>㉖ プライミング, 間接プライミング, 直接プライミング</li> <li>㉗ スキーマ, フレーム, Shank, R. C., スクリプト</li> <li>㉘ ACT, プロダクション・ルール, 手続き的知識, プロダクションへのコンパイル</li> <li>㉙ 試行錯誤, ケーラー, 洞察</li> <li>㉚ 問題空間, 操作子, ハノイの塔, 手段-目標分析</li> <li>㉛ 演繹的推論, 帰納的推論, 三段論法, バイアス</li> <li>㉜ 確証バイアス, 真, 偽, 主題化効果</li> <li>㉝ トゥバスキー, カーネマン, 代表性ヒューリスティック, 利用可能性ヒューリスティック,          係留と調整ヒューリスティック</li> <li>㉞ プロスペクト, リスク回避, リスク志向, フレーミング効果</li> </ol>	2013/11/29

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitai>)に掲載された日付です。